

専門医に聞く

# あなたの病気

2

アレルギーの病気  
骨・関節・筋肉の病気  
こころの病気  
歯(口腔)の病気  
循環器(心臓)の病気



月刊クオリティ編集部



くま文庫

北大医学部・札幌医大・旭川  
医大・道医療大の各科教授らが  
最新の治療法などを公開

—取材協力 病・医院ガイド併載—

道民雑誌「月刊クオリティ」の  
500円ワンコイン文庫

くま文庫創刊記念  
読者プレゼント



旭川医科大学医学部  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

原 洌 はらぶち

保明教授 やすあき

1956年生まれ。旭川医科大学医学部卒。89年7月札幌鉄道病院耳鼻咽喉科医長、91年12月ニューヨーク州立大学バッファロー校医学部小児科学講座 Research Instructor。93年7月札幌医科大学耳鼻咽喉科学講座講師、98年11月より現職。日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会理事等。

旭川医大耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座では、道内に多いシラカンバ花粉症に対するペプチドワクチン療法の研究を行っており、国内外から高い評価を受けている。

さまざまなタイプの患者にペプチドワクチン療法を適用させるには、多数のHLA（白血球の型）と結合するペプチドが有用だが、同大学では、数多くのHLAに適合し、アレルギー反応を抑える制御性T細胞を活性化させるペプチドを発見した。

シラカンバ花粉症の治療については、これまで「脱感作療法」や「舌下免疫療法」が一般的だったが、「ペプチドワクチン療法では、アナフ

イラキシ―反応のような副作用を完全に抑えることができる」と原渕保明教授は、そのメリットを説明する。

さらに同大学では、**急性中耳炎**の起因菌の一つであるインフルエンザ菌に対するペプチドワクチンの開発を目的として、インフルエンザ菌であるP6蛋白に着目。この研究でも数多くのHLAに結合するペプチドの候補を見つけ、研究成果を09年5月に韓国のソウルで開催された「国際中耳炎シンポジウム」で発表した。